



表紙シリーズ『日本の四季彩巡り』を 終了するにあたって

東海大学名誉教授、東海大学八王子病院顧問
医療法人泰仁会理事長
きた がわ やす ひさ
北川 泰久
Yasuhisa KITAGAWA

私は2018年1月号から2024年3月号の6年3か月の長期にわたり、モダンメディアの表紙を担当し、タイトルを「日本の四季彩巡り」とし、この間全国の70余りの撮影地のシーンを掲載させて頂きました。まず、このような機会を与えて下さったモダンメディアの皆様には厚く御礼申し上げます。この企画のお声がけを頂いたのはモダンメディアの重鎮である帝京大学名誉教授、水口國雄先生からで、当時、東海大学八王子病院の検査科科長の川田勉様が水口教授と懇意で私が風景写真を撮っていることを紹介して頂いたことがきっかけになっています。

私とカメラとの出会いはすでに小学校のころで、遠足には常にカメラを首から提げている写真が残っています。1974年に慶應義塾大学医学部を卒業し、入局した神経内科の後藤文男教授がカメラに造詣が深く、教室でのカメラ談義に耳を傾け興味が増しました。大学病院の病棟ではカメラ業界では老舗である銀一カメラ（現：銀一）の丹羽壽彦前社長の主治医となり、その当時、発売されたばかりの一眼レフ、ニコンF100を勧められ、このカメラが最初に自分が購入した高級機でした。その後、カメラはデジタル化が進み、ニコンD200から始まり、D850を5年間使い、現在はニコンZ8を愛用しています。

私は特にプロの先生に写真を撮ったわけではなく、師匠として常日頃アドバイスを頂いているのはヨドバシカメラマルチメディアAkibaの阿部淳一様です。阿部様の撮影に取り組む姿勢は素晴らしく、自分がこのシリーズを連載できたのもそのご指導の賜物と深く感謝しています。自然の風景を撮るにあたり、常に参考にしていく三種の神器はウェザーニュースと人工衛星経由で様々な気象の状態を教えてくれるSCWとWindyというアプリです。そのほか日出日入、潮汐ナビを用いて、太陽、月の出る時刻や、満潮干潮の情報を状況に応じてチェックしています。

自分の風景写真の撮影歴は約25年で、自分が撮った風景写真は17年間連続カレンダーとして東海大学八王子病院の病棟、全個室、検査科に展示しています。また、モダンメディアの写真やカレンダーを自分の勤務している病院やクリニックでも紹介し、患者さんから「大変心が和んだ」、「パワーをもらった」、「元気になったらその場所を訪れたい」などの声をいただき、患者さんの病状が良い方向に向かうのに少しでも役に立っているのではないかと感じています。

撮影はベストの状態、四季の味わいのあるショットが撮れるのはほんの短期間、短時間で、また必ずしも自分の日程に合う日とは限りません。そのため、何度も訪れている場所も多くあります。撮影する日と時刻については、多いのは仕事柄、休日の早朝から午前中にかけてで、家族には多少の不満はあるようですが、多大な迷惑はかけていないつもりです。

モダンメディアの掲載写真の色の度合いや解説文については、前担当の大森圭子様や現担当の美濃部さやか様には毎月足をお運びいただき、適切なコメントを頂き、この場を借りて感謝申し上げます。2020年から3年間とコロナ禍で十分な行動が出来ない状態が続きましたが、状況はやや改善しており、これからは撮影が続く限り、自分は青春の真ただ中と思っています。2015年、東海大学を退任時、「憧憬」という題で120か所の風景写真集を1冊にまとめましたが、その後9年経ち、作品も貯まりましたので、将来「憧憬II」として集大成したいと考えています。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。最後に長い間、この様な貴重な経験を与えて下さったモダンメディア一同の皆様へ改めて心より感謝の意を表します。

令和6年3月31日